

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	観光課長	廣川 正
市民-10	実施事業	観光協会支援事業	■ 自治事務	主管課 観光課
			□ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針	地域が一体となった観光振興の推進

1 事業の目的

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

対象	鎌倉市観光協会・観光客等	・鎌倉の観光に係る様々な情報を効果的に発信するため、観光ウェブサイトの運営を連携して行い、観光客の利便性の向上を図った。 ・鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の事業に対する支援を行い、本市の観光振興の充実を図った。
意図	様々な観光主体のネットワークの中心となり、観光宣伝と観光客誘致を行う鎌倉市観光協会の支援を図るため。	
効果	観光消費の増大による既存産業の活性化、雇用機会の拡大等の経済的効果や、市民の誇りや郷土愛の醸成、観光客の定住促進等の社会的効果を通じて、地域の活性化につながる。	

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数	83,058世帯	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	57,242	55,005	当初予算(千円)	54,716
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他			その他	
	一般財源	57,242	55,005	一般財源	54,716
	人員配置数	0.1	0.1	人員配置数	0.1
人件費(千円)	912	872	人件費(千円)	873	
事業経費運営	総事業費(千円)	58,154	55,877	総事業費(千円)	55,589
	市民1人当りの経費(円)	330	317	市民1人当りの経費(円)	315
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい 今後も市が実施すべき事業か	3. 廃止・休止による影響は大きくある 5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか △.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 観光協会は自主財源の確保に向けた努力は行っているものの、財政基盤を支えるまでには至っておらず、観光客等への対応や行事の実施は必要であることから事業内容、予算規模共に前年と同額程度は必要である。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	今後も多くの観光客が訪れる鎌倉の観光施策の中核を担う組織として、観光協会に対して、引き続き財政面をはじめ、様々な支援、協力、連携を行っていく必要がある。	

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	行政と観光協会の役割分担をさらに進め、必要な体制を構築していく。 観光協会の自主財源確保に向けて新規事業の展開等の検討を継続していく。 鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を引き続き実施させる。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	SNS等を活用した観光情報の発信を強化するため専門職員を雇い、観光協会による、定期的な観光客のニーズに合わせた観光情報の提供を行った。 自主財源の確保に向けた富裕層向けの新規事業の調整を行った。 ホスピタリティの強化に向けて観光案内所の運営や情報発信について協議を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	自主財源の確保について、引き続き新規事業の展開の検討を行う。 鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を引き続き実施させる。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	入込観光客数等(平成30年度) 単位:千人								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	横須賀市	逗子市	三浦市	横浜市	川崎市	箱根町
他市実績	19,871	18,392	2,954	8,572	1,001	6,371	46,863	20,613	21,260

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内全市町村が行っている入込観光客数調査において、鎌倉市は県内で4番目であるが、面積は上位3市町よりも小さいことから、他市に比べて観光客が密集していることが伺える。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	鎌倉に来る前の期待に対する満足度(来訪者アンケート+WEBアンケート)					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0			
	実績値	79.2	79.5	76.9	78.9	88.1	87.1			
	達成率	93.2%	93.5%	90.5%	92.8%	103.6%	102.5%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	目標値を上回っていることから、引き続き維持または向上させるよう努めたい。
-----------------------	--------------------------------------